

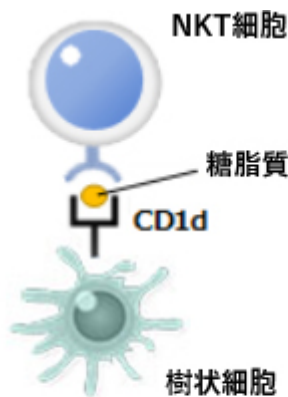
NKT細胞療法の研究データ

当院のNKT細胞療法の加工技術

NKT細胞療法を実施しても、患者さんの体内で実際にNKT細胞が活性化しなくては意味がありません。当院はNKT細胞を強力に増殖・活性化させる樹状細胞を開発し、使用しています。このNKT細胞療法に用いる樹状細胞のはたらきについて詳細に解析しています。

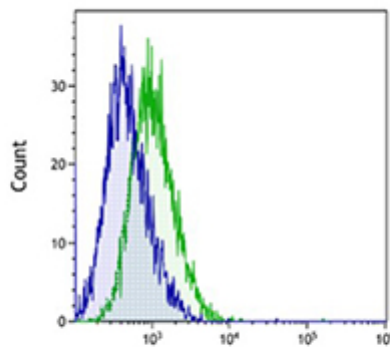
NKT細胞は、体内で樹状細胞のCD1dという土台の上に乗った α -ガラクトシルセラミドを認識します。よって、NKT細胞療法に用いる樹状細胞には、このCD1dがしっかり出ていることが重要となりますが、すべての樹状細胞がCD1dを出しているわけではありません。

当院のNKT細胞療法に使用する樹状細胞は、樹状細胞ワクチンのものよりCD1dを多く出す樹状細胞を使用することで、より効率よくNKT細胞を活性化出来ることが期待されます。

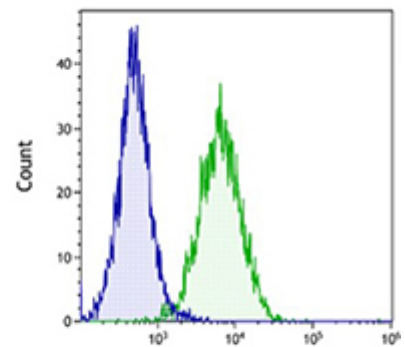


NKT細胞療法ではCD1dを出した樹状細胞を用いることが重要

当院で使用する樹状細胞の使い分け



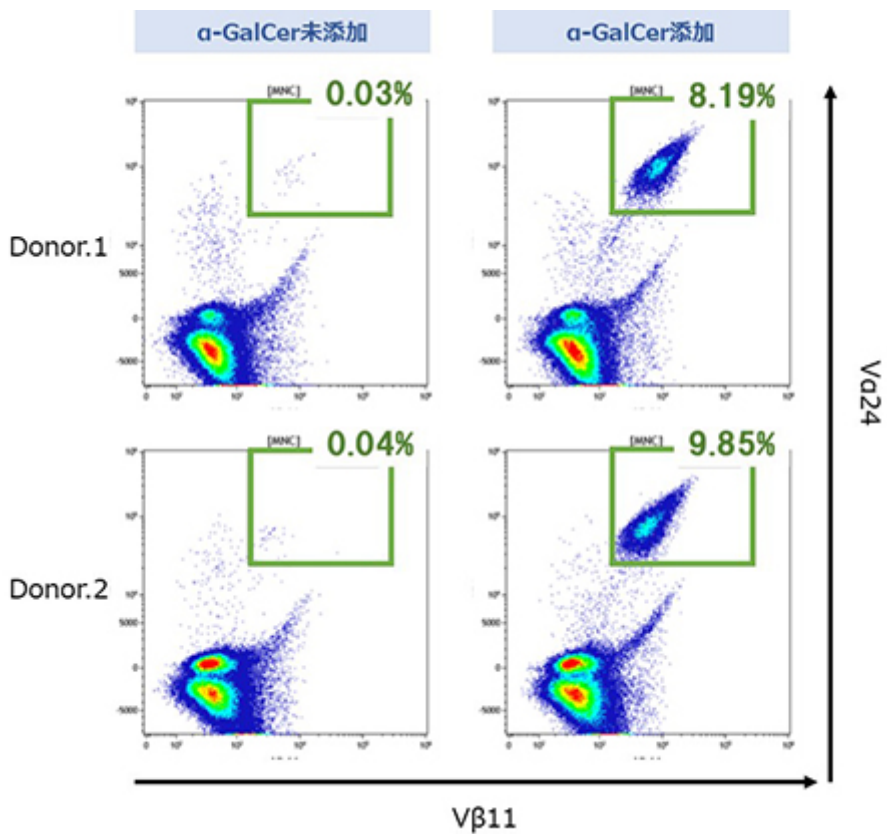
樹状細胞ワクチンで使用する樹状細胞



NKT細胞治療で使用する樹状細胞

※緑の山が右側にあるほど樹状細胞がより多くのCD1dを出していることを示します。
青色の山は全くCD1dを出さない場合の指標（コントロール）です。
(データ提供：メディネット社)

また、このCD1dがより多く出ている樹状細胞に α -ガラクトシルセラミドを加えると、最適条件下で数百倍にもNKT細胞を増殖・活性化することが実験で確認されています。つまり、この α -ガラクトシルセラミドを加えた樹状細胞を用いることで、患者さんの体内でもNKT細胞が増殖・活性化され、がん細胞を制御することが期待されます。



(データ提供：メディネット社)